筑摩書房版『古典探究』（古探71５・７１６）内容の特色

|  |  |
| --- | --- |
| **教科書名** | **教科書調査の観点** |
| **（１）内容** | **（２）構成・分量** | **（３）表記・表現および使用上の便宜** | **（４）その他** |
| **①知識・技能** | **②思考力・判断力・表現力** | **③言語活動** |
| **古典探究（古探715／716）** | （１）古典の作品における言葉の特徴や用いられ方について理解を深めたり、自らの考えを広げたりする古典教材や学習の手引きが充実している。 | C　読むこと古文・漢文について、的確に捉え、理解を深めるための教材が充実している。 | 「実践」や教材ごとの手引きで主体的対話的で深い学びを実践する数多くの言語活動例が示され、十分配慮されている。 | ・教材収録本数が多く、作品や作者のバリエーションも多岐にわたり、教材選択の幅が広い。 | ・脚注や系図・地図、手引きや時代区分、脚問などが適宜掲げられており効果的である。 | ・巻末付録の「古語の理解」「漢語の理解」、年表などが授業に役立ち、評価できる。 |
| （２）古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や中国など外国の文化との関係について理解を深めたり、文語や訓読のきまりについて理解を深めたり、現代に至る言葉の変化や影響について理解を深めるための古典教材が充実している。 | ・単元ごとに「単元の目標」が示され、単元を通しての学習の見通しが立つように工夫されている。 | 特に絵巻物、絵画などのカラー図版が時代・風俗を理解する際に有効である。 |
| （３）先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書について、十分配慮されている。 | ・教材ごとに「視点」が示されて、教材を通して学習の見通しが立つように工夫されている。 |
| ・教材ごとに「司会」と「表現」が示され、身につける資質・能力を明確である。 |